

## 研 究 主 題

「未来へとたくましく生きる体づくりができる子どもの育成をめざして」

～運動を通して仲間とのかかわり合いの楽しさが感じられる体育学習をめざして～

### 1 研究主題について

児童を取り巻く環境が変わり、様々な問題が指摘される中、体育の学習では、「友だちと共に体を動かすことが楽しい」という経験を積ませることが重要であると考え、西伯郡は、「未来へとたくましく生きる体づくりができる子どもの育成をめざして」～運動を通して仲間とのかかわり合いの楽しさが感じられる体育学習をめざして～と設定した。

### 2 研究の実際

#### ○学習内容の明確化

「西伯スタンダード」を各学校の体育学習の年間指導計画に組み込み、6か年を意識した指導を行っていく。(系統表の活用)

#### ○学習過程の工夫

「わかる」と「できる」の一致をめざした指導。得た知識・技能を次に「生かす・挑戦する」。

#### ○効果的な指導

場の設定。教具の開発や工夫。ICTの活用（IPAD、動画など）。

#### ○言語活動の充実

児童相互で動きを見合ったり、教えあったりする場を意識的に設ける。教師が引き出したい授業でのねらいにつながるキーワードを児童自身が話せるような工夫もしていく。

#### ○形成的授業評価やデータを生かした授業分析

ふり返しカードやアンケートを有効に活用し、次の授業につなげていく。

### 3 具体的な取り組み

6／18 西伯郡小学校研究会体育部会理事会

研究の方向性

7／9 授業研究会（提案授業）

大山町立大山西小学校 細田 祐樹 教諭（水泳）

7／31 西伯郡小学校研究会体育部会

中四国大会のプレ発表の検討会

10／26 中四国大会（倉敷市） 発表

大山町立大山西小学校 細田 祐樹 教諭 市橋 将太 教諭

12／7 授業研究会（西伯スタンダード）

伯耆町立溝口小学校 岩崎 曜一朗 教諭（投）

### 4 来年度に向けて

今年度は中四国大会（岡山大会）で水泳領域の発表をした。今回の研究の成果を郡内各校でも生かしながらよりよい体育学習につなげていきたい。

## 実践事例 1

### 第5学年「投の運動」の実践を通して

伯耆町立溝口小学校

岩崎 曜一郎

奥田 律夫

#### 1 はじめに

##### (1) 運動の持つ特性

ハンドボールは、「攻守入り乱れ型」のボールゲームである。ハンドボールをするにあたって、力強く投げることで、正確に投げるが必要になってくる。力強く投げるためには、腕を振り切ることや、体全体を使ってバランスよく投げることで、投げる時の肘の位置や、つま先の向きなどが重要になってくる。また、パスを使ってボールを相手ゴールまで運び、コンビネーションでシュートまでつなげていくなど、仲間と力を合わせ集団対集団の攻防によって競い合う楽しさを味わうことができる。同じゴール型ゲームのサッカーやバスケットボールと比べ、ハンドボールは、ボールを手で握って扱ったり、攻守の局面が比較的是っきりしたりしていることから、簡単な作戦を立てゲームの反省を練習や次のゲームに生かしていく戦術学習に適した教材と言える。さらに、「投げる」、「走る」、「跳ぶ」などの動きが必要となり、それらを必要に応じて連続させたり、組み合わせたりする必要がある。攻撃や守備にスピード感があり、素早いパスやキャッチの瞬間的な判断力が必要で、敏捷性や瞬発力、判断力を養うことのできる運動である。

##### (2) 児童の実態

本学級の児童は、運動が好きな児童が多い。元気で活発な児童が多く、運動することに対して前向きな児童がほとんどであり、これまでのゲーム領域の運動にも積極的に取り組んできた。しかし、運動を苦手と感じている児童は自分に自信がもてず、ゲームの中で率先して動くことができない場面も見られた。また、本学級のソフトボール投げの記録は県平均よりも男子が4m、女子が10m上回っている。投げる力はあるが、より遠くに投げるためのフォームや狙ったところに投げる正確性は身につけていない。肘が下がってしまうことや投げるときに体が開いてしまい、肘が前にでてこないことが原因と考えられる。



#### 2 実践について

##### (1) 単元の目標

- ①運動に進んで取り組み、規則を守って仲よく運動したり、勝敗を受け入れたり、場や用具の安全に気を付けたりすることができる。(関心・意欲・態度)
- ②ルールを工夫したり、簡単な作戦を立てたりすることができる。(思考・判断)
- ③パス・シュートなどの基本的なボール操作やボールを持たないときの動きによって、ハンドボールのゲームを行うことができる。(技能)

##### (2) 指導について

投力の育成を焦点化していることや個人の技能差に対応し、チームで決めた作戦を実行しやすくするために試合はドリブルなしで行った。ドリブルをしないため、よりボールを自分の思ったように扱える力が必要になってくる。また、ボール操作やパスの精度だけでなく、ボールを持たない時の動き方が大切になる。そのため、パスを出した後にスペースを見つけて走り込んだり、味方がパスを出しやすい位置に移動したりすることを常に意識させた。味方のいる位置に正確にパスを出すためには、投げるボールの速さの調整、狙ったところに投げるコントロ

ールも必要になってくるので、基礎練習でそれらの練習にも取り組んだ。「練習1」では、主に「ボール操作の技能」や「ボールを持たないときの動きの技能」を高める運動を取り入れた練習を、「練習2」では、「ハンドボールの特徴を生かした簡単な作戦」を共通学習する。また、第5時以降の「作戦タイム・チーム別練習」では試合の結果や内容からチームの課題に応じ、必要な練習を話し合いで決めたり、提示した資料の中から必要な作戦を選択したりして練習し、次の試合に生かすようにした。

単元を通して、運動に苦手意識をもつ児童でも自分ができることに全力で取り組み、チームに貢献できたと感じられるようにしたり、得意な児童はどうしたらチーム力を上げられるのかを考えさせたりするなど、誰もが協力し認め合いながら活動させた。誰もがボールを力いっぱい投げてシュートをする爽快感や味方にパスが通った喜びなど、ハンドボールの楽しさをチーム全体で感じられるように計画した。

### 3 授業の実践(6／8時間目の授業から)

#### (1) 目標

○チームの特徴にあった攻め方を知り、簡単な作戦を立てたり、選んだりしてゲームに生かしている。(思考・判断)

#### (2) 準備

ホワイトボード 作戦ボード ビブス 学習や運動の図や絵  
カラーコーン ゴール 学習カード

#### (3) 学習内容

- ①集合、あいさつ
- ②準備運動
- ③めあて、チーム目標の確認
- ④練習1
- ⑤ゲーム①
- ⑥作戦会議、練習2
- ⑦ゲーム②
- ⑧振り返り



### 4 成果と課題

児童はボールを力強く正確に投げるには今までの投げ方ではなく、投げるときの肘の位置を高くすることや腕を振り切ること、腕だけではなく体全体を使うことの大切さを理解することができていた。ゲーム形式で取り組むことで、点を取るためにどのような投げ方が効果的かを考えて練習を行う必然性が生まれたと感じる。また、チームで協力して共通の課題に取り組むことで、運動の苦手な児童もチームのためにどのように活動するかを考え、話し合いながら自分の役割を明確にして行動することもできていた。

課題として、ゴール前に敵や味方が密集してしまい、シュートをなかなか打つことができなかったり、パスをつなぐことに意識がいきすぎて、思いきり投げきれなかったりする場面が見られた。今後、より「投げる」ことが試合に関わってくるようルール工夫をしたり、「投げる」運動により時間をかけてさらに力を伸ばしたりしていくよう心がけていきたい。



## 1 はじめに

体力を高める運動は、体の動きを高めることで直接的に体力の向上をねらう運動である。学習指導要領では、「運動の楽しさや喜びを味わうとともに、中学年までに身につけた体の基本的な動きを基に、体のさまざまな動きを高めるための運動である」ことが述べられている。実施にあたっては、児童が必要感を得ないまま運動を繰り返す活動にならないよう配慮し、自己の課題をもち楽しく運動を行いながら体の動きを高められるようにしなければならない。

「わたしたちの体育」には体力を高める運動の各内容について、様々な体の動かし方が図版で掲載されている。今回の実践では、児童が主体的に運動に取り組んだり、自己の課題を意識して運動を選択し行ったりすることをねらい、私たちの体育の図版を利用した運動の場の設定や、自己の課題を確認するための時間の設定に工夫をして授業を進めた。

## 2 指導の実際

### (1) 単元計画

| 時間   | 1                                                             | 2～4                                                                      | 5                                               |
|------|---------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------|
| 学習内容 | あいさつ・準備・準備体操・体ほぐし                                             |                                                                          |                                                 |
|      | ◎オリエンテーション<br>・活動内容や運動の仕方を知る<br>・場の設定を知る。<br>・きまりや安全について確認する。 | ・グループごとに、様々な運動に挑戦する。<br>・行った運動について振り返りや記録の記入を行う。<br>・個人で、さらに深めたい動きに挑戦する。 | ・記録会<br>グループごとに記録に挑戦したり、競い合ったりする。<br>◎単元全体の振り返り |
|      | 整理体操・振り返り・片付け・挨拶                                              |                                                                          |                                                 |

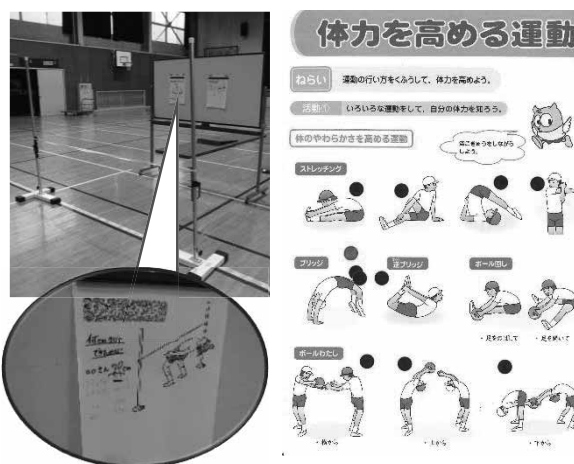
### (2) 指導の工夫

#### ○運動の場の設定と運動を楽しむための工夫

体育館内に「わたしたちの体育」の図版を拡大したもの貼り、場の設定や運動の仕方の確認をしやすいようにした。また、運動ごとに記録の計測の仕方を示した。図版には記録を直接書き込んだり、動きのアドバイスを書き込んだりできるようにした。

#### ○振り返りの充実

振り返りの際、児童各自が所持する「わたしたちの体育」の該当ページの各動きの絵に、行った運動については小さな色シールを貼って、挑戦した回数やその動きに対する達成度が分かるようにした。



## 3 おわりに

「わたしたちの体育」の図版により、児童は動きのイメージを持ちやすく、また同じ図版で振り返りを行うことで、児童が課題を持ったり次の活動への意欲を高めたりしやすくなったと考える。